

網走湖 – 網走川河口より確認された魚類

山川 雄大

089-2615 北海道廣尾郡廣尾町本通3丁目

Fishes of Lake Abashiri-ko to Estuary of Abashiri-gawa River

YAMAKAWA Yūdai

3 Hondōri, Hiroo-chō, Hokkaido 089-2615, Japan

はじめに

網走川は阿幌岳（標高978 m）の麓に水源を発し、支流を併せながら津別町、美幌町を流下し、女満別町（現、大空町）で網走湖に流入し、網走市で湖口から再び網走川となって流れ出し、網走市内でオホーツク海に流入する幹川延長115 km、流域面積1,380 km²の一級河川である。網走湖（面積32.8 km²、最大深度16.4 m、平均水深6.1 m、半鹹水湖）から河口にかけては汽水域を形成し、海水魚の進入も地元では以前から知られていた。これまで網走川流域の生息魚類の報告として流域全体では環境庁（1989）が19種を挙げ、後藤（1991）の分布図からは17種が該当する。網走湖からは伊藤・工藤（1989）が14種（ただしリストにあるハゼ類が何を指すかは不明）、井上（1990）は25種を挙げており、網走湖より下流ではリバーフロント整備センター（1993）が4種、網走開発建設部（1997）が新橋付近から14種を記録した。しかし、海水魚をも含めた魚類相に関するまとまった報告はこれまでなかった。

筆者は網走湖 – 網走川河口の生息魚類の調査を行った結果、18科29属38種の魚類が確認されたので、ここに報告する。

調査方法

調査地は網走川下流（網走市大曲付近） – 河口域（図1）、網走湖（図2）、および網走湖に流入するトマップ川（図3）である。網走川の調査地点を図4に、網走湖周辺の調査地点を図5に示す。

調査は1987年から2012年にかけて目視による確認、手網による採捕、筆者および筆者が目撃した釣り人による釣獲個体の確認および写真撮影を行った。証拠標本は著者が保管しているが、標本や写真が確保できなかった種類もあり、作製した標本の中にもその後紛失したものや漬液（75%エタノール）の蒸発や劣化により廃棄したものもある。なお確認個体の体位は全長（TL）で示した。

確認された魚種

1. ニシン *Clupea pallasii* Valenciennes（ニシン目ニシン科）

網走川：15 VIII 1991, 1尾（TL 262 mm），図4-D, 6.

網走橋下流側で釣獲個体を採取。海水魚。伊藤・工藤（1989）、井上（1990）は網走湖の生息魚類として挙げていた。

2. マイワシ *Sardinops melanostictus* (Temminck & Schlegel)（ニシン目ニシン科）

網走川：7 X 1990, 1尾（TL約25 cm），図4-H, 25 VIII 1991, 1尾（TL約12 cm），図4-D.

1990年に網走橋上流側で多数の個体が釣獲されていた（図7）。1991年の1個体は網走橋下流側から確認（釣獲個体）。本種は完全な海水魚で、筆者も河川内で本種を確認したのはこの2例だけであった。

3. ギンブナ *Carassius auratus langsdorfii* Temminck &



図1. 網走川最下流(網走市). 図4-D-F.



図2. 網走湖(大空町, 旧女満別町). 図5-5.



図3. トマップ川(大空町, 旧女満別町). 図5-5.

Schlegel (コイ目コイ科)

網走湖(女満別町): 3 XI 1993, 4尾 (TL 192 mm, 185 mm, 173 mm, 105.7 mm), 図8.

網走湖から漁獲された(千葉漁業部). 従来網走

川流域からはフナ類としての報告であったが(環境庁 1989), 網走開発建設部(1997)による調査(1995-96)ではギンブナを記録し, 鈴木・佐藤(2004)は網走川流域のフナ類をギンブナと判定している. 筆者が確認した個体は全て図8に見られるように典型的なギンブナの体形であった.

4. ヤチウグイ *Phoxinus phoxinus sachalinensis* Berg (コイ目コイ科)

網走湖: 21 IX 1997, 6尾 (TL 131.0 mm, 120.0 mm, 101.8 mm, 90.1 mm, 80.6 mm, 61.6 mm), 図9.

漁獲個体(杉山漁業部). 井上(1990)が網走湖の生息種として挙げており, その後もリバーフロント整備センター(1993), 桑原・山崎(1996), 鬼丸ら(2003), 鈴木・佐藤(2004)が網走川流域から記録していた.

5. ウグイ *Tribolodon hakonensis* (Günther) (コイ目コイ科)

網走湖: 3 XI 1993, 9尾 (TL 140.1 mm, 139.9 mm, 136.0 mm, 131.8 mm, 117.7 mm, 113.8 mm, 111.7 mm, 108.1 mm, 93.7 mm), 図10.

漁獲個体(千葉漁業部). 網走湖では明治時代から漁獲の記録があった(春日井2003).

6. ? ジュウサンウグイ *Tribolodon brandtii brandtii* (Dybowski) (コイ目コイ科)

網走川: 28 VII 1990, 1尾 (TL 約33 cm), 図4-D. 25 VIII 1991, 1尾 (TL 約35 cm), 図4-D, 11.

釣獲個体で, これら2個体は体形などからジュウサンウグイの可能性がある. 本種は以前マルタウグイと呼称され, 伊藤・工藤(1989)もこの名称で網走湖から報告していた. 近年に至り本種の和名は亜種名であったジュウサンウグイとされ, 道内産はこれに該当するという(藤田2015).

7. マドジョウ *Misgurnus anguillicaudatus* (Cantor) (コイ目ドジョウ科)

網走湖: 23 IX 1993, 1尾 (TL 83.0 mm); 大空町湖南(水路): 25 IX 2010, 1尾 (TL 49.3 mm), 図



図4. 網走川河口付近における調査地点。a地点は埋め立て地で、本来明らかに河川内ではなかった区間である。

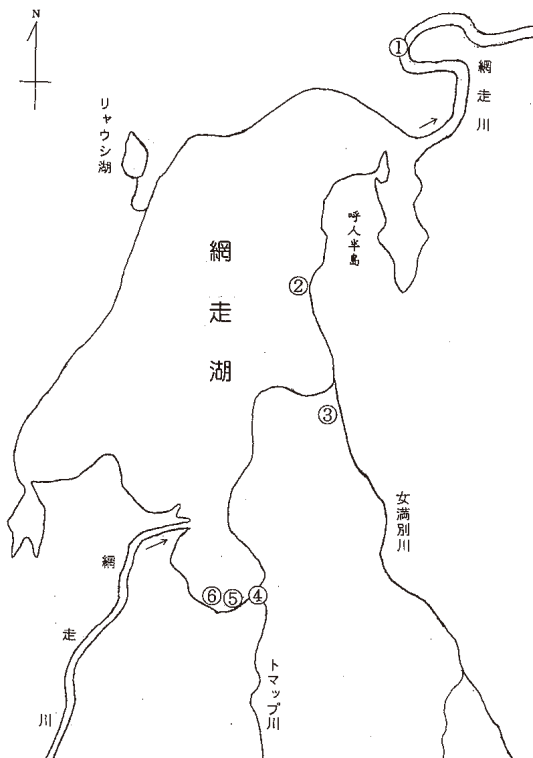


図5. 網走湖における調査地点。

5-3, 12.

網走湖産は漁獲による(杉山漁業部)。井上(1990)は網走湖の生息魚類として挙げていた。鈴木・佐藤(2004)によると旧女満別町界の各河川に見られるという。

8. フクドジョウ *Nemacheilus barbatulus toni* (Dybowski) (コイ目ドジョウ科)

網走湖: 9 IX 1990, 1 ♀ (TL 51.8 mm), 図5-6, 13.

女満別の網走湖湖岸近くから得られた。この時点で伊藤・工藤(1989), 井上(1990)による網走湖の魚類には本種は挙げられていなかった。酒井(1994)はその後網走湖に流入するトマップ川を生息河川として挙げ、植田ら(1996)は女満別川, 網走湖からも報告した。

9. サケ *Oncorhynchus keta* (Walbaum) (サケ目サケ科)

網走川: 30 V 1993, 5尾(幼魚: TL 52.5 mm, 51.1 mm, 50.0 mm, 49.4 mm, 46.0 mm), 図4F, 14.

25 IX 2010, 1♂ (死骸: TL 約 60 cm), 図 4-F.
幼魚は釣獲個体である。

10. サクラマス (ヤマメ) *Oncorhynchus masou masou* (Brevoort) (サケ目サケ科)

網走湖: 21 IX 1997, 1尾 (TL 91.4 mm), 図 15.
漁獲個体 (杉山漁業部による)。

11. キュウリウオ *Osmerus dentex* Steindachner & Kner (サケ目キュウリウオ科)

網走川: 7 X 1990, 約 5尾 (TL 20–25 cm), 図 4-H.

網走橋上流側でマイワシとともに複数の個体が釣獲されていた。井上 (1990) は網走湖の生息魚類として挙げている。

12. ワカサギ *Hypomesus nipponensis* McAllister (サケ目キュウリウオ科)

網走湖: 6 X 1991, 1尾 (TL 78 mm); 網走川: 6 XII 1992, 4尾 (TL 90.3 mm, 87.7 mm, 82.9 mm, 79.4 mm). 10 VIII 2009, 2尾 (TL 47.0 mm, 91.8 mm), 図 4-F, 16.

網走湖産は漁獲によるもので (中村漁業部), 当日は多数の個体が漁獲されていた。網走川での 1992 年の個体は釣獲個体。2009 年の個体は手網で捕獲。網走湖では漁業上重要種となっている。

13. チカ *Hypomesus japonicus* (Brevoort) (サケ目キュウリウオ科)

網走川: 8 VIII 2009, 1尾 (TL 102.5 mm), 図 4-F, 17.

手網で捕獲。海水魚であるが, 汽水域にも進入する。井上 (1990) が網走湖の生息魚類として挙げている。

14. シラウオ *Salangichthys microdon* Bleeker (サケ目シラウオ科)

網走川: 7 X 1990, 1♀ (TL 46.3 mm), 図 4-F, 18;
網走湖: 6 X 1991, 2尾 (TL 約 5 cm)。

網走川産は網走橋の袂で釣獲された。網走湖産は漁獲 (中村漁業部)。当日は多数の個体が漁獲されて

いた。網走湖ではワカサギとともに漁業上重要種となっている。

15. コマイ *Eleginus gracilis* (Tilesius) (タラ目タラ科)

網走川河口: 14 VIII 2005, 1尾 (TL 約 25 cm), 図 4-A, 9 VIII 2009, 1尾 (TL 約 21 cm), 図 4-A, 19.

いずれも釣獲個体で, 道の駅の下流側で釣獲されていた。2009 年 8 月 9 日には中央橋上流側 (図 4-J) で釣獲された個体を目撃している (頭部切断)。海水魚であるが汽水域にも進入することがあり, 井上 (1990) の網走湖のリストにも挙がっている。

16. メナダ *Chelon haematocheilus* (Temminck & Schlegel) (ボラ目ボラ科)

網走湖: 30 IX 1990, 1尾 (TL 91.9 mm), 図 20;
網走川: 15 VIII 1991, 1尾 (TL 約 50 cm), 図 4-D.

網走湖産は漁獲個体 (杉山漁業部)。網走川産は釣獲後投棄されていたもの。井上 (1990) のリストおよび網走開発建設部 (1997) の新橋付近の記録にも挙がっている。海水魚であるが道内でも河川内によく進入し, 一般にボラとも呼ばれる。

17. サヨリ *Hyporhamphus sajori* (Temminck & Schlegel) (ダツ目サヨリ科)

網走川: 28 VIII 1994, 6尾 (TL 76.6 mm, 72.8 mm, 71.8 mm, 70 mm 前後, 66.9 mm, 61.6 mm), 図 4-H, 21.

網走橋より上流で確認, 手網で採取。海水魚であるが汽水域にも進入する。網走開発建設部 (1997) では新橋付近から記録されている。

18. 太平洋系降海型イトヨ *Gasterosteus aculeatus aculeatus* Linnaeus (トゲウオ目トゲウオ科)

網走川: 30 V 1993, 1尾 (TL 76.2 mm), 図 4-F, 10 VIII 2009, 1尾 (TL 78.1 mm), 図 4-B, 17 VII

2012, 5尾 (TL 76.0 mm, 76.0 mm, 73.5 mm, 72.0 mm, 72.0 mm), 図 4-F; 網走川河口: 10 VIII 2009, 2尾 (TL 約 3 cm), 図 4-a; 網走湖: 23 IX 1993, 3尾

(TL 39.0 mm, 33.3 mm, 30.7 mm); 網走湖 (呼人漁港): 17 VII 2012, 11尾 (TL 82.0 mm, 78.0 mm,

72.0 mm, 72.0 mm, 72.0 mm, 22.0 mm, 21.0 mm,

20.0 mm, 18.0 mm, 18.0 mm, 18.0 mm), 図5-2, 22.

網走川の1993年5月の個体は釣獲, 網走湖の同年9月の個体は漁獲による(杉山漁業部). 2009年(網走川, 網走川河口)と2012年(網走川, 網走湖(呼人漁港))の個体は手網で捕獲した. 細谷ら(2015)は, 道内のイトヨをニホンイトヨ *Gasterosteus nipponensis* Higuchi, Sakai & Goto, 太平洋系降海型イトヨ *G. aculeatus aculeatus* Linnaeus および太平洋系陸封型イトヨ *G. aculeatus* subsp. に分けているが, 網走開発建設部(1997), 石島(1996)は網走川産を降海型イトヨとしているので, ここでは細谷ら(2015)のいう太平洋系降海型イトヨとした.

19. トミヨ *Pungitius sinensis* (Guichenot) (トゲウオ目トゲウオ科)

網走湖: 23 IX 1993, 8尾(TL 72.8 mm, 70.6 mm, 70.1 mm, 69.3 mm, 68.7 mm, 67.5 mm, 63.3 mm, 59.9 mm). 29 X 1993, 5尾(TL 59.7 mm, 57.9 mm, 57.6 mm, 56.0 mm, 50.1 mm); トマップ川: 24 IX 2010, 1尾(TL 47.0 mm), 図5-4, 23; 大空町湖南(水路): 25 IX 2010, 2尾(TL 34.3 mm, 31.6 mm), 図5-3.

網走湖産は漁獲個体(杉山漁業部), それ以外は手網で捕獲. 細谷ら(2015)にはトミヨ *P. sinensis* は近年イバラトミヨ *P. pungitius* (Linnaeus) とともにトミヨ属淡水型 *P. sp.* 1とされているとあるが, 筆者は現時点ではイバラトミヨとされていたタイプを網走川流域からは確認していないので, 従来通りトミヨとした.

20. クロソイ *Sebastes schlegelii* Hilgendorf (カサゴ目フサカサゴ科)

網走川: 28 VII 1990, 1尾(TL 145.9 mm), 図4-A. 17 VIII 1990, 1尾(TL 約10 cm), 図4-A. 8 VIII 2009, 1尾(TL 131 mm), 図4-A, 24. 9 VIII 2009, 1尾(TL 約25 cm), 図4-B; 網走川河口: 10 VIII 2009, 1尾(幼魚: TL 約4 cm), 図4-a.

幼魚以外はいずれも釣獲個体(幼魚は手網で採捕). 本種は海水魚であるが, 幼魚や若魚は河口や汽水域に進入する傾向が非常に強く, 網走川でも河口付近では多い.

21. スジアイナメ *Hexagrammos octogrammus* (Pallas) (カサゴ目アイナメ科)

網走川: 10 IX 1989, 1尾(TL 約13 cm), 図4-F; 網走川河口: 13 VIII 2005, 1尾(TL 約13 cm), 図4-A, 25.

釣獲された個体を目撃. 本種は海水魚で, これまでに河川内での報告はなかった. ちなみに北海道栽培漁業振興公社(1982)による瀟沸湖産のアイナメは *Hexagrammos sp.* となっているところから, 本種の可能性もある.

22. エゾアイナメ *Hexagrammos stelleri* Tilesius (カサゴ目アイナメ科)

網走川河口: 17 VIII 1990, 1尾(TL 約13 cm), 図4-A.

釣獲個体. 前種同様海水魚で河川内での報告はなかったが, 網走川で本種が確認された地点は明らかに海域であり, 低塩分の水域は好まないようである.

23. ギスカジカ *Myoxocephalus stelleri* Tilesius (カサゴ目カジカ科)

網走川: 9 VIII 2009, 2尾(TL 約170 mm, 153 mm), 図4-B, 26.

釣獲個体. 道の駅付近で釣獲されていた. 海水魚. 後藤(1982, 1991)は早くから本種を淡水魚の範疇に含めていたが, 現時点では疑問である.

24. ベロ *Bero elegans* (Steindachner) (カサゴ目カジカ科)

網走川河口: 8 VIII 2009, 2尾(TL 148.0 mm, 約13 cm), 図4-A, 27.

釣獲個体. 完全な海水魚で, これまでに河川内からの確認例はなかった.

25. ナガガジ *Zoarcetes elongatus* Kner (スズキ目ゲンゲ科)

網走川: 15 VIII 1991, 1尾(TL 約30 cm), 図4-D. 12 VII 1992, 1尾(TL 338 mm), 図4-F. 4 V 1998, 2尾(TL 345 mm, 270 mm), 図4-H, 28.

網走橋下流側で釣獲個体を確認(1998年は上流側). 網走橋付近から河口近くまでよく釣獲される. 海水魚であるが, 汽水域も生息域としている.

26. ムロランギンポ *Pholidapus dybowskii* (Steindachner)
(スズキ目タウエガジ科)

網走川: 29 IX 1990, 1尾 (TL 約 40 cm), 図 4-F,
29; 網走川河口: 9 VIII 2009, 1尾 (TL 131.6 mm),
図 4-A.

海水魚。いずれも釣獲個体で, 1990年の個体は
尼岡邦夫氏の同定による。この地域ではガズナギと
呼ばれ, 網走川で稀に釣獲されるという (1990年9月
29日, 釣り人より聞き取り)。

27. アシシロハゼ *Acanthogobius lactipes* (Hilgendorf)
(スズキ目ハゼ科)

網走湖: 23 IX 1993, 2尾 (TL 75.8 mm, 63.2
mm), 図 30.

漁獲個体 (杉山漁業部)。井上 (1990) は網走湖の
生息魚類として挙げている。女満別の網走湖沿岸付
近 (図 5-5) では, 水底近くをホバーリングする個体
が見られる。

28. ヌマチチブ *Tridentiger brevispinis* Katsuyama, Arai
& Nakamura (スズキ目ハゼ科)

網走湖: 1 XI 1988, 1尾 (TL 47.8 mm), 図 31,
23 IX 1993, 1尾 (TL 57.8 mm); トマップ川: 22 X
1989, 2尾 (TL 24.8 mm, 21.8 mm), 図 5-4. 24
IX 2010, 1尾 (TL 30.4 mm), 図 5-4; 網走川: 3 XI
1989, 1尾 (TL 約 10 cm), 図 4-F. 28 VII 1990, 2
尾 (TL 5-6 cm), 図 4-I.

網走湖産は漁獲個体 (杉山漁業部)。1989年11
月の個体は釣獲個体。それ以外は手網によって捕
獲。網走湖から網走川河口付近まで広く見られる。
旧湧網線網走川橋梁附近 (図 5-1) では個体数も多
い。本種はかつてはチチブ *T. obscurus* (Temminck
& Schlegel) として扱われており, 網走湖産も井上
(1990) が報告した時点ではチチブとされていたが,
少なくとも筆者が確認した個体は全てヌマチチブで
あった。

29. ウキゴリ *Gymnogobius urotaenia* (Hilgendorf) (ス
ズキ目ハゼ科)

網走湖: 23 IX 1993, 4尾 (TL 140.8 mm, 120.0
mm, 117.0 mm, 116.3 mm), 図 32.

漁獲個体 (杉山漁業部)。井上 (1990), 壁谷・横
濱・石島 (2003) が網走湖の生息魚類として挙げている。

30. シマウキゴリ *Gymnogobius opperiens* Stevenson (ス
ズキ目ハゼ科)

網走川: 28 VII 1990, 1尾 (TL 34.5 mm), 図 4-E;
網走湖: 23 IX 1993, 1尾 (TL 93.0 mm), 図 33.

網走川産は網走橋下流側で手網で捕獲。網走湖
産は漁獲個体 (杉山漁業部)。

31. ジュズカケハゼ *Gymnogobius laevis* (Steindachner)
(スズキ目ハゼ科)

トマップ川: 22 X 1989, 2尾 (TL 52.8 mm, 52.6
mm), 図 5-4; 網走湖: 3 XI 1993, 16尾 (TL 61.7
mm, 58.8 mm, 56.3 mm, 56.0 mm, 55.6 mm, 55.4
mm, 55.2 mm, 52.8 mm, 52.2 mm, 50.7 mm, 50.6
mm, 49.8 mm, 48.6 mm, 45.8 mm, 45.4 mm, 41.0
mm), 図 34.

トマップ川産は手網で捕獲。網走湖産は漁獲個体
(千葉漁業部)。当初同属のピリンゴ *Gymnogobius
breunigii* (Steindachner) と思われたが, 尼岡邦夫氏に
よりジュズカケハゼと同定された。本例以降, 網走開
発建設部 (1997), 鈴木・佐藤 (2004) が網走川流域
から確認している。

32. ?チクゼンハゼ *Gymnogobius uchidai* (Takagi) (ス
ズキ目ハゼ科)

網走川: 28 VII 1990, 4尾 (TL 15-20 mm), 図
4-E.

手網で捕獲。下顎に肉質突起が見られたことや体
側面にかなり明瞭な暗色の横帯の列が見られたこと
からチクゼンハゼの可能性があったが, 標本紛失。

33. ヌマヨシノボリ (新称) *Rhinogobius* sp. OR (スズキ
目ハゼ科)

トマップ川: 24 IX 2010, 10尾 (TL 30.8 mm, 30.4
mm, 29.0 mm, 28.2 mm, 27.7 mm, 26.5 mm, 22.0
mm, 21.5 mm, 20.8 mm, 20.1 mm), 図 5-4; 大空
町湖南 (水路): 25 IX 2010, 4尾 (TL 28.7 mm, 27.4
mm, 27.1 mm, 24.7 mm), 図 5-3, 35.

トマップ川と、女満別川に接続する用水路から確認された。本種は以前トウヨシノボリとされていた種類であるが、最近の研究ではトウヨシノボリとされていた分類群の中に複数種が含まれている可能性が強まり（細谷ら2015）、分類の再検討の必要性が生じているため、トウヨシノボリの和名もいったん解消傾向にある。また「トウ」というのはかつてヨシノボリ各群が「型」とされていた頃の名称である「橙色型」からの平行流用であるが、トウの語呂だけでは何を意味するのか分からない。そこで、筆者は本種が池沼に多く見られる傾向が強いことからヌマヨシノボリの和名を提唱する。網走開発建設部（1997）は網走湖の網走川デルタ地帯および新橋付近からルリヨシノボリ *Rhinogobius* sp. CO を記録していたが、分布域や生息環境が合致しないことから、これらはヌマヨシノボリと推測される。石島（2005）は網走湖、網走川水系産をトウヨシノボリとしていた。

34. マサバ *Scomber japonicus* Houttuyn (スズキ目サバ科)

網走川: 7 X 1990, 1尾 (TL約12 cm), 図4-D.

網走橋の下流側で釣獲後投棄されていた個体を目撃。本種は完全な海水魚で、筆者も河川内で釣獲された個体を確認したのはこのときが初めてである。なお濤沸湖からは本種が報告されていた（北海道栽培漁業振興公社1982）。

35. マガレイ *Pleuronectes herzensteini* (Jordan & Starks) (カレイ目カレイ科)

網走川河口: 14 VIII 2005, 1尾 (TL約15 cm), 図4-A.

海水魚。河口で釣獲個体を目撃した。

36. クロガシラガレイ *Pleuronectes schrenki* (Schmidt) (カレイ目カレイ科)

網走川: 1尾, 17 VIII 1990 (TL約20 cm), 図4-F. 12 VII 1992, 2尾 (TL 145 mm, 124 mm), 図4-C. 10 VIII 2009, 1尾 (TL 151.5 mm), 図4-F, 36.

いずれも網走橋下流側での釣獲個体。海水魚であるが尼岡ら（1995, 2011）、村上（2003）は本種は汽水域にも入るとしている。網走川では網走橋付近から河口まで見られ、個体数も多い。

37. トウガレイ *Pleuronectes pinnifasciatus* Kner (カレイ目カレイ科)

網走川: 28 VII 1992, 1尾 (TL約25 cm), 図4-G.

網走橋の袂で釣獲個体を目撃。かなり汚れてはいたが本種と同定できた。海水魚であるが、尼岡ら（1995, 2011）は前種同様本種も汽水域にも入るとしている。

38. ヌマガレイ *Platichthys stellatus* (Pallas) (カレイ目カレイ科)

網走川: 29 IX 1990, 1尾 (TL約20 cm), 図4-F. 12 VII 1992, 1尾 (TL 162 mm), 図4-F, 37.

網走橋付近での釣獲個体。本種はカレイ類の中で最も多く河川に遡上し、純淡水域に常棲する個体も少なくない。網走川でも古くから知られており、大曲橋付近（図5-1）と、中央橋から河口までのほぼ全区間で見られた。網走湖でも伊藤・工藤（1989）、井上（1990）、石島（1992, 1993, 2005）のリストにも挙がっている。

確認魚種の生活型区分

網走湖から網走川河口に至る区間で確認された魚類38種を生活型で区分すると、純淡水魚4種、陸封型淡水魚3(4)種、遡河性回遊魚8種、両側性回遊魚5種、海水魚18種となった（表）。網走川は網走湖より下流の区間は汽水域を形成し、河口近くは明らかに海水域となっていることから海水魚の占める割合が高くなるのはむしろ当然であり、網走湖から河口までの範囲で確認された全種のうち海水魚は約47%にも及んだ。

しかし海水魚の中でマイワシ、スジアイナメ、エゾアイナメ、ベロ、ムロランギンボ、マサバ、マガレイは淡水域との結びつきは考えにくい種類であり、少なくともこれらの種類まで淡水魚と見なすことは無理がある。単純に河川内に進入したら淡水魚とするのであれば、近年熊本県天草地方の河川で捕獲されたクロマグロまで淡水魚ということになってしまう。

また網走川から確認された海水魚のうち前述7種およびトウガレイは、現時点では「確認された魚類」であって、真に網走川の生息魚種と言えるのかどうか、今後も調査を続けていく必要があると思われる。

表. 網走湖-網走川河口より確認された魚類の生活型区分.

| | | |
|----------|-------|---|
| 純淡水魚 | 4種 | ギンブナ, ヤチウグイ, マドジョウ, フクドジョウ |
| 陸封型淡水魚 | 3(4)種 | トミヨ, ジュズカケハゼ ^a , ヌマヨシノボリ ^a , (ウグイ ^b) |
| 遡河回遊性淡水魚 | 8種 | サケ, サクラマス, キュウリウオ, ワカサギ, シラウオ, ウグイ ^b , ジュウサンウグイ, 太平洋降海型イトヨ |
| 両側回遊性淡水魚 | 5種 | アシシロハゼ, ヌマチチブ, ウキゴリ, シマウキゴリ, チクゼンハゼ |
| 海水魚 | 18種 | ニシン, マイワシ ^c , チカ, コマイ, メナダ, サヨリ, クロソイ, スジアイナメ ^c , エゾアイナメ ^c , ギスカジカ, ベロ ^c , ナガガジ, ムロランギンボ ^c , マサバ ^c , マガレイ ^c , クロガシラガレイ, トウガレイ, ヌマガレイ |

^a両側性とも見なし得るが、海洋と無関係な閉鎖的な水域で生活環を全うする傾向が強いことから陸封型淡水魚に含めた。

^b同種内で降海型が存在することから遡河性回遊魚に含めたが、陸封型と重複する性格を有する。

^c海水魚の中で淡水域との結びつきは考えにくく、少なくとも現時点では網走川を必須の生活環境としていると断定できない。

今回確認された種類の中で、純淡水魚、陸封型淡水魚、遡河性回遊魚、チクゼンハゼ以外の両側性淡水魚は確実に網走川の生息魚類であると言えるし、海水魚の中でもニシン、チカ、コマイ、サヨリ、メナダ、クロソイ、ナガガジ、ヌマガレイは河川内でも生活領域としていることが一般に認知されていることから網走川の生息魚類と見なしでも全く問題はないであろうし、クロガシラガレイも多くの個体が河川内に進入することからも網走川の生息魚類と見なしでもやはり問題はないであろう。

また標本の紛失から確認状況が不詳となっているチクゼンハゼについては今後も生息調査を行い、採捕に努める必要がある。

今後の動向

網走川は網走湖から下流は汽水域を形成し、海水域も見られることから、今まで未記録だった海水魚がさらに追加される可能性が大いにあり、今後も網走湖から河口域までの調査が続行されることを望みたい。

網走川はその河口付近はマヒトデやヤドカリ類までもが釣りの外道としてかかってくるころから完全な海水域であり、今後もこの区間だけで確認された魚種までも淡水魚の範疇に含めるとするのは甚だ問題がある。河川の中には河口付近は完全な海水域となっている場合も少なくないので、河口付近で確認された海水魚までも直ちに淡水魚と定義し得るとは限らない。

外来種については、コイ *Cyprinus carpio* Linnaeus とニジマス *Salmo mykiss* (Walbaum) が網走川流域ですでに定着しているが(マドジョウも国内外来種の可能性がある)、近年はタイリクバラタナゴ *Rhodeus ocellatus ocellatus* (Kner) が網走湖から確認されている(尼岡ら2011)。今後は道内他水系で定着している外来種ブラウントラウト *Salmo trutta* Linnaeus, カムルチー *Channa argus* (Cantor), ブルーギル *Lepomis macrochilus macrochilus* Rainesque, および国内外来種ゲンゴロウブナ *Carassius cuvieri* Temminck & Schlegel, モツゴ *Pseudorasbora parva* (Temminck & Schlegel), タモロコ *Gnathopogon elongatus elongatus* (Temminck & Schlegel) なども網走湖および網走川流域に持ち込まれる可能性が十分にあるので、その動向も注意して見守る必要がある。

謝辞

ムロランギンボ、ジュズカケハゼの同定でお世話になった北海道大学水産学部の尼岡邦夫先生、網走湖の情報を提供して下さった東京農業大学生物産学部の鈴木淳志先生(故人)、網走川の情報を提供して下さった網走市の山田訓二氏、ラッキー商会の方々、資料をお送りいただいた網走開発建設部の方々、イトヨの体位測定とウグイの同定に協力して下さった熊本県の松井英司氏、貴重な標本を恵与して下さった杉山漁業部、中村漁業部、千葉漁業部、および釣り人の方々に、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

引用文献

- 網走開発建設部. 1997. 網走川水系(網走川): 河川・水辺の国勢調査(ダイジェスト版); 1991-1996年. 141 pp. 北海道開発局網走開発建設部, 網走.
- 尼岡邦夫・仲谷一宏・矢部衛. 1995. 北日本魚類大図鑑. 390 pp. 北日本海洋センター, 札幌.
- 尼岡邦夫・仲谷一宏・矢部衛. 2011. 北海道の全魚類図鑑. 482 pp. 北海道新聞社, 札幌.
- 後藤晃. 1991. 魚類. 前田一步園財団(編), 北海道自然環境図譜. 271-304 pp. 前田一步園財団, 阿寒.
- 北海道栽培漁業振興公社. 1982. 濤沸湖漁業振興調査報告書. 51 pp + 5 pls. 北海道栽培漁業振興公社, 札幌.
- 細谷和海・藤田朝彦・武内啓明・川瀬成吾. 2015. 日本の淡水魚. 山溪ハンディ図鑑15. 527 pp. 山と溪谷社, 東京.
- 井上聰. 1990. 網走湖の環境変化と生物. 北海道の自然と生物3: 65-73.
- 石島芳郎. 1992. 網走の淡水魚相(予報). あばしり生物通信11(4): 4-6.
- 石島芳郎. 1993. 網走地方における淡水魚の採集記録. あばしり生物通信16(3): 35.
- 石島芳郎. 1996. 網走におけるイトヨ(降海型)の分布. オホーツク野生動物研究会誌6: 11.
- 石島芳郎. 2005. 網走川・網走湖の淡水魚. オホーツク野生動物研究会誌15: 6-9.
- 伊藤和雄・工藤智・多田匡彦・阿部英治・坂田康一・村田清康・山岸吉弘. 1989. 昭和63年度網走湖漁場環境調査報告書. 49 pp. 北海道, 札幌.
- 壁谷喜信・横濱道成・石島芳郎. 2003. 北海道産ウキゴリ3型の外部計測値. オホーツク野生動物研究会誌13: 7-11.
- 壁谷喜信・植田幸子・横濱道成. 1995. 道東・道北におけるドジョウ類の採集記録. オホーツク野生動物研究会誌5: 15-16.
- 環境庁. 1989. 日本の河川環境. 149 pp. 大蔵省印刷局, 東京.
- 春日井潔. 2003. ウグイ *Tribolodon hakonensis* (Günther). 水島敏博・鳥澤雅(監), 上田吉幸・前田圭司・嶋田宏・鷹見達也(編), 新北のさかなたち: 漁業生物図鑑. 80-83 pp. 北海道新聞社, 札幌.
- 桑原禎知・山崎裕治. 1996. 網走地方の平野部の淡水魚について. 美幌博物館研究報告4: 19-28.
- 前川光司・後藤晃. 1982. 川の魚たちの歴史. 212 pp. 中央公論社, 東京.
- 村上修. 2003. クロガシラガレイ *Pleuronectes schrenki* (Schmidt). 水島敏博・鳥澤雅(監), 上田吉幸・前田圭司・嶋田宏・鷹見達也(編), 新北のさかなたち: 漁業生物図鑑. 264-267 pp. 北海道新聞社, 札幌.
- 鬼丸和幸・羽根石晃彦・八巻正宜・友田邦敏. 2003. 網走川水系の淡水魚類相. 美幌博物館研究報告11: 45-54.
- 酒井健司. 1994. フクドジョウの分布と生息環境(予報). 北海道の自然と生物9: 32-36.
- 鈴木淳志・佐藤伊有也. 2004. 北海道女満別町の農業地帯の河川, 用水路に生息する淡水魚類と環境. 美幌博物館研究報告12: 57-68.
- 植田幸子・横濱道成・石島芳郎. 1996. 網走支庁管内におけるフクドジョウの分布. オホーツク野生動物研究会誌6: 1-3.
- リバーフロント整備センター. 1993. 平成2・3年度河川水辺の国勢調査年鑑: 魚介類調査編. 698 pp. 山海堂, 東京.



図6. ニシン(液漬, TL 262 mm)



図9. ヤチウグイ(液漬, TL 131.0 mm)



図7. 網走川でのマイワシ釣り(網走市)

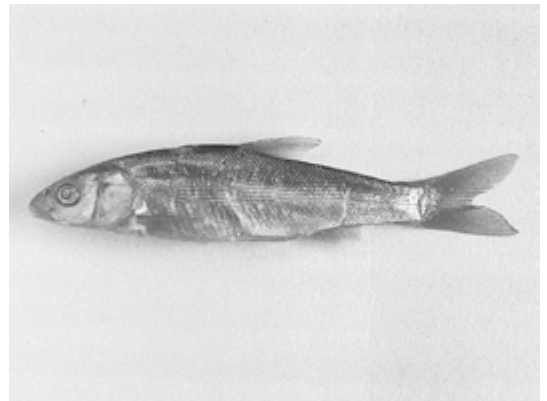


図10. ウグイ(液漬, TL 131.8 mm)



図8. ギンプナ(液漬, TL 105.7 mm)



図11. ジュウサンウグイ?(TL約35 cm)

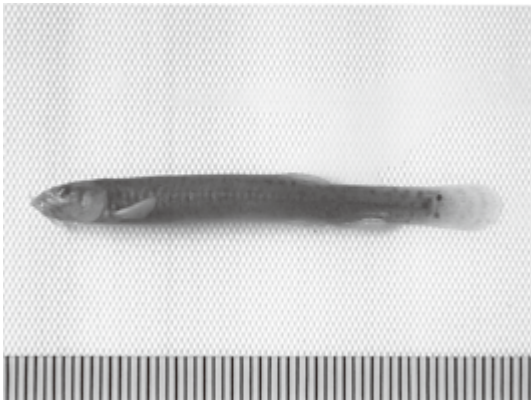


図12. マドジョウ (TL 49.3 mm)



図15. サクラマス (ヤマメ) (液漬, TL 91.4 mm)



図13. フクドジョウ (液漬, TL 51.8 mm)

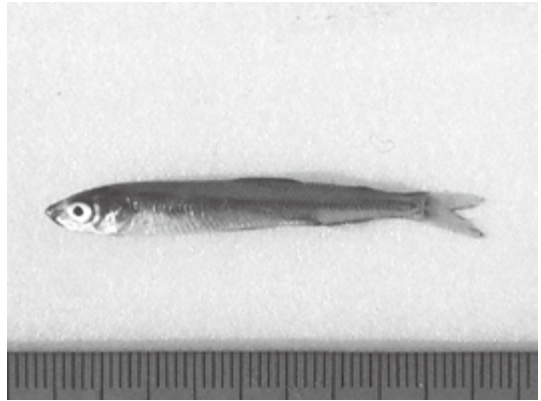


図16. ワカサギ (TL 47.0 mm)



図14. サケ (幼魚) (液漬, TL 51.1 mm)



図17. チカ (TL 102.5 mm)



図18. シラウオ (液漬, TL 46.3 mm)



図21. サヨリ (液漬, TL 76.6 mm)



図19. コマイ (TL約21 cm)



図22. 太平洋降海型イトヨ (TL 78.0 mm)



図20. メナダ (液漬, TL 91.9 mm)



図23. トミヨ (液漬, TL 47.0 mm)

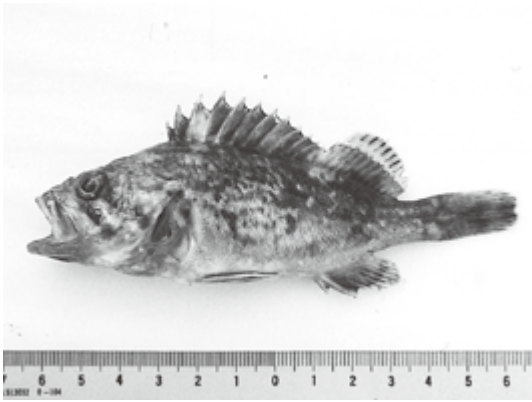


図24. クロソイ (TL 131 mm)



図27. ベロ (TL 148.0 mm)



図25. スジアイナメ (TL 約13 cm)



図28. ナガガジ (TL 345 mm)



図26. ギスカジカ (液漬, TL 153 mm)



図29. ムロランギンボ (TL 約40 cm)



図30. アシシロハゼ (液漬, TL 63.2 mm)

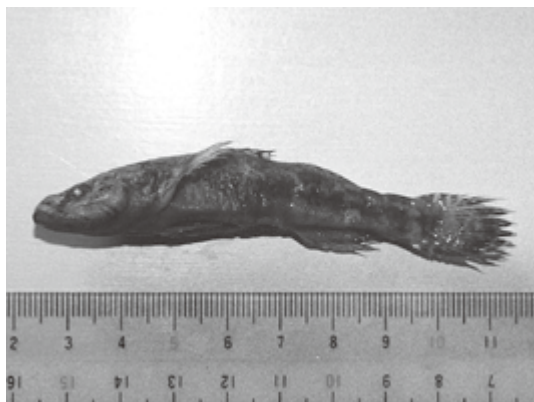


図33. シマウキゴリ (液漬, TL 93.0 mm)



図31. ヌマチチブ (液漬, TL 47.8 mm)



図34. ジュズカハゼ (液漬, TL 49.8 mm)



図32. ウキゴリ (液漬, TL 117.0 mm)

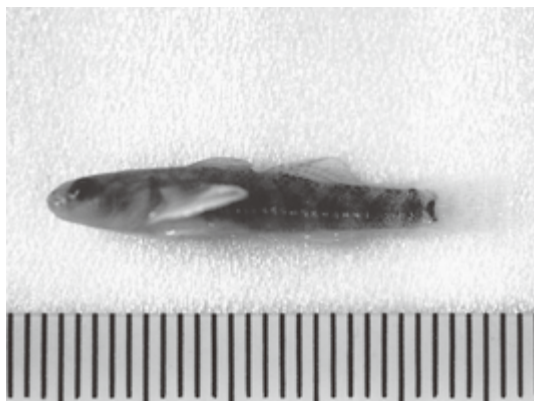


図35. ヌマヨシノボリ (TL 27.1 mm)



図36. クロガシラガレイ (液漬, TL 151.5 mm)



図37. ヌマガレイ (液漬, TL 162 mm)